



一歩踏み出したい
あなたへ贈る
21のコトバ

ガールズ・ビー・アンビシャス

集英社インターナショナル [編]

構成 ミゲル

翻訳 玉居子泰子

装画 新水

装幀 高橋忍

セクハラ、ジェンダーバイアス、シングルマザー問題、非正規雇用の増加、出産・育児や体調変化への無理解……一九八五年に男女雇用機会均等法が制定されて以来、三五年を経た日本ですが、女性をめぐる社会的な課題は枚挙に暇がありません。多様性への意識の高まりが注目される一方で、女性蔑視や抑圧が解消されたとは言い難い状況にあります。

しかし、そのような困難な状況にあっても、自らの人生を切り拓くだけでなく、社会通念を打ち破り、世の中の流れに影響を与えるような女性が大勢います。そして彼女たちの発する言葉は、ときには激しく、ときには寄り添うように、私たちの心へと響きます。もしも、人生の岐路を迎えている方、物事がうまくいかず思い悩んでいる方、生きること困難を感じている方など、不安を抱え、勇気を持っていない女性たちになら、彼女たちの言葉はなおさら元氣や示唆を与えてくれるに違いありません。

本書では、あらゆる分野で活躍する女性たちによる力強い二一の言葉を集めました。この中にあなたの背中を押してくれる力になるような言葉がきつとあるはずです。

目次

まえがき

3

01 あなたらしく生きるあなたへ

田中優子

「自由を生き抜くとは、どんな人も自由を生き抜ける社会を作ること」

10

森本千絵

「できるだけ多くの体験を。嫌なことがあっても、ありがたく感じて」

17

上野千鶴子

「フェミニズムは、弱者が弱者のまま尊重されることを求める思想です」

20

山崎直子

「もし火星に降り立つことになったら、今度は地球の旗が立てられたらいい」

28

02 世界の持続可能性

グレタ・トゥーンベリ

「私たちホモサピエンスは、まだ完全に失敗してはいません」

40

「世界は目を覚まそうとしています」⁴⁵

「変化を始めることはできる。今、ここから。私たち自身が」

48

サンナ・マリナ

「平等とは、生まれた環境に未来が左右されないという考えに、誰もが自信を持てる状態のこと」⁵⁴

54

露木志奈

「何か自分のできることをひとつ、考えてみてください」⁶²

62

セヴァン・カリス・スズキ

「あなたたち大人は、私たち子どもを愛しているのが本当なら、どうか行動で示してみてください」⁷²

72

安田菜津紀

「世界は恩送りの連鎖のなかで成り立っている」

77

03 自立と教育を考える

ヒラリー・クリントン

「すべての人のために、女性は力を持つべきです」

108

アン・ハサウェイ

「明日は、どう変わっていてほしい？」

119

周庭（アクネス・チョウ）

「香港人は今、自分の家を守るために一生懸命抵抗しています」

127

中島さち子

「ワクワクするような状況とは、真剣であること」

134

マララ・ユスフザイ

「本とペンを手にしましょう。それが私たちのもっとも強力な武器です」

149

04 働き方を考える

加藤庸子

「自分は何に向いてるのかを知ること大切」

160

山野千枝

「アトツギが胸を張って地元に戻れるような世界を創る」

169

小室淑恵

「長時間労働をやめれば、山積する日本の社会問題は解決する」

186

平野未来

「新規事業に求められるDX、そして起業家に必要な粘り強さ」

195

南場智子

「人や自分に向かわず、事に向かう」

214

Girls, be Ambitious



01

あなたらしく生きるあなたへ

ときに迷い、ときに悩みながら、
人は選択と決断を繰り返す。
人生の岐路ききろに立つ
あなたへ、贈りたい言葉。

田中優子

「自由を生き抜くとは、どんな人も
自由を生き抜ける社会を作ること」

二〇二二年三月二十四日 「法政大学第一三九回学位授与式」総長告辞より

みなさま、ご卒業おめでとうございます。保護者のみなさまにも、心よりお祝い申し上げます。最終学年であったこの一年、みなさんは今まで体験したことのない、さまざま困難に遭遇したことを思います。法政大学の学生だけでなく、日本中、世界中の大学生、大学院生が、オンラインで講義を受け、限られた時間のなかで実験・実習を行い、フィールドワークや調査や留学も十分に体験できませんでした。さらに、教員や友人たちと直接の交流や意見交換する機会もほと



たなかゆうこ◎法政大学第19代総長／法政大学名誉教授／エッセイスト／江戸文化研究者。1952年、神奈川県生まれ。法政大学社会学部教授、社会学部長等を経て、2014年から2021年3月まで同大総長に就任。専門は日本近世文学、江戸文化、アジア比較文化。2005年、紫綬褒章受章。『江戸の想像力』（ちくま学芸文庫／芸術選奨文部大臣新人賞受賞）、『江戸百夢』（ちくま学芸文庫／芸術選奨文部科学大臣賞、サントリー学芸賞受賞）など著書多数。

んどないまま、卒業あるいは修了していかねばなりません。大変残念なことです。

しかし、人生における特別な体験は、後の大きな糧になることがあります。

みなさんは、この限られた環境のなかで、何を感じ何を考えたでしょうか？ 特別な年の特別な経験を無駄にしないよう、仕事に就く方も進学なさる方も、この一年が自分に何を与えてくれたか、ぜひ振り返ってみてください。

法政大学はもうすぐ始まる新学期で、対面授業とオンライン・オンデマンドなどを組み合わせたハイブリッド、そして対面授業をオンラインでも中継するハイフレックスなどを使っていきます。これからみなさんが入っていく学びの場や働く場も、コロナ以前には戻りません。日々、新しい方法を模索しながら新しいかたちを創り上げていく場所なのです。ぜひこの一年で得たものを、新たな場の創造に活かしてください。

ところで、私もみなさんと同じこの三月末日をもって、総長の任期が終わり、退任します。教員としても法政大学を去ります。この壇上に立つのも、今日が最後です。

本日ここに立って、七年前のことを思い出しました。二〇一四年の四月三日、私は初めてこの日本武道館の演台の前に立ち、みなさんにこう語りかけました。

「一九七〇年、私はみなさんと同じように法政大学に入学しました。この正面の二階のあたりに座っていたことを、今でも覚えています。後に総長としてここからメッセージをみなさんにお届けすることになるとは、想像もしてませんでした」と。

なぜ想像できなかったかという点、一九七〇年当時、女性が大規模総合大学の総長や学長になることなど、あり得なかったからです。しかし今は、東洋大学や同志社大学など、次々と女性の学長が誕生しています。アメリカのカマラ・ハリス副大統領は就任前、「私は女性として初めての副大統領になるだろうが、最後にはならない」と言いました。さまざまな場所で、さらに多くの女性のリーダーが生まれることでしょう。

それぞれの役割を果たすことで社会を変えていく

しかし、現時点ではどうでしょう。

世界経済フォーラムが発表した二〇一九年末時点の日本のジェンダーギャップ指数、つまり女性活躍の割合は、一五三カ国中一二一位です。二〇一八年の総務省の労働力調査によると、非正規雇用の割合は、男性雇用者全体の二二・二パーセントですが、女性雇用者全体では五六・一パーセントにのびります。コロナ禍によって二〇二〇年の一月から七月には、約一〇七万人の非正規労働者が職を失い、その約八〇パーセントが女性でした。男女の大きなギャップが以前からあり、このコロナ禍でそれがはつきり見えるようになったのです。社会の格差は男女の区別なく大きくなっています。しかし、とりわけ女性のなかに、その格差のもたらす貧困が広がっているのです。

私は今、一方で女性が大学総長にも副大統領にもなる時代になった、という話をしました。そ

して一方で、職を失った多くの女性のことを話しました。この二つの事柄にはどのようなつながりがあるでしょうか？ あるいは、つながりがないのでしょうか？

組織のなかで少数者の割合が三〇パーセントを超えると、組織そのものが大きく変わると言われます。それは女性についても言えることです。ぜひそれは成し遂げねばなりません。では達成されれば、非正規雇用の男女差は縮まるでしょうか？ 恐らくすぐには変わりません。

しかし、これだけは言えます。男性も女性もそれぞれの役割を果たすことで、自分自身のみならず、家族、友人、そして社会全体に影響を与えます。

みなさんがいかなる意識をもって一人の人間として生きていくか、何を目標に自らの役目を果たすか、その姿勢が社会に影響を及ぼします。自分の生活の安定だけを追求するのか、それともともに生きる人たちや、仕事の背後にいる、多くの人々に対する想像力と共感をもって働くのか、それによって社会は違っていきます。

「自由を生き抜く実践知」とは

ところで、この「共感」という言葉は、法政大学憲章も大切にしている言葉です。法政大学を卒業するにあたって、みなさんには、心にある「問い」をもって、卒業していただきたい、と私は思っています。それは法政大学憲章のタイトル「自由を生き抜く実践知」についてです。この大学憲章の精神は、辞書的な意味を知ることによって身につくわけではありません。私にとって自由を

生き抜くとは、どうすることなのか、私にとっての実践知とはなんだろうか、自分のこととして問い続けることで初めて、この憲章の価値観が理解できるのです。つまりこの憲章の言葉は単なる言葉ではなく、自分のあり方を考える場所であり、思考の方法なのです。

まず、私の場合をお話ししましょう。私はみなさんと同じように、大学に入って何を学ぶか、大学院に入って何を研究するか、決断しながら生きてきました。進学、就職、転職など大事な決断のときは、好き嫌いだけではなかなか決められませんね。ありとあらゆることを考えます。この道を進んだら自分の将来はどうなるだろうかという不安は、誰もが感じます。しかし私の場合、大学で出合った江戸文化研究への渴望^{かつぼう}が、そのような不安をはるかに上回ってしまいました。「どんな生活をするようになって、この道を手放したくない」と考えるようになったのです。私にとっては研究と執筆を続けることこそが「自由を生き抜くこと」でした。正規の仕事には就けないかもしれない。しかし将来のことは考えずに全力を尽くす毎日でした。松尾芭蕉に「無能無芸にしてただこの一筋につながる」という言葉があります。私はまさに自分のことのように感じました。私には「この一筋」しかありませんでした。

どんな人も自由を生き抜ける社会をつくる

昨年（二〇二〇年）の一月に起こった事件で、この決断のことを思い出しました。渋谷区のバス停で座ったまま眠っていた六〇代の路上生活の女性が、石を入れた袋で殴られ、亡くなったの

です。女性は非正規で働いていた方で、新型コロナウイルス感染拡大のために職を失っていました。女性たちは路上で横になって眠ることに危険を感じ、電灯のついている場所で座ったまま眠るのだ、と聞きました。

この事件は、大学生のころ「どんな生活をするようになってもかまわない」と考えていた私にとって、他人ごとではありませんでした。自分だったかもしれない、と思ったのです。私ばかりでなく、多くの人々にとって他人ごととは思えず、とりわけ女性たちの関心を集めました。

なぜひとつの人生の選択が、このような終わりを迎えねばならないのでしょうか？ どのような選択をしても、人間としての尊厳を持って生きていかれる社会が必要です。自由を生き抜くとは、自分自身の自由を大切にするだけでなく、どんな人も自由を生き抜ける社会をつくることなのです。

では「実践知」とはなんでしょう。「実践知」はギリシヤ哲学に由来する言葉ですが、今自分が置かれている現実には足をしっかりとつけ、理想とする方向に向かって歩み続ける知性のことです。まさに「どんな人も自由を生き抜ける社会」を目指し、その方法を柔軟に探索する知性なのです。

迷う余裕のなかった私自身の体験をお話ししましたが、では迷ったときにはどうするか。複数の選択肢を前にしたとき、多くの情報や、身近な人たちの期待や、ときには圧力さえ感じます。さらに、個々人の心のなかには、その時代の社会の価値観が内在化されています。つまり自分で自分を縛っています。多くのことが頭をよぎります。

ガール・ビーアンビシャス
一歩踏み出したいあなたへ贈る21のコトバ
集英社インターナショナル[編]

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

定価：本体 1,300円 + 税

発売日：2022年2月25日

ISBN：978-7976-7408-8

ネット書店でのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)